

## 第 1 回宇治市公共交通活性化委員会での意見要旨

1. 委員会への住民参加について
2. 委員会の進め方について
3. 公共交通の活性化に関して
4. 代替交通手段の検討について
5. 明星町アンケートの結果の分析に関して
6. 槇島での実証実験に関して
7. 小倉地域へのアンケート調査について

1. 委員会への住民参加について	
<b>意見 1</b>	宇治市公共交通活性化委員会は公共交通を利用し、維持していく役割を担う住民の方の参加がない。住民の方が参画できる、情報共有できる仕組みが必要ではないかと考えます。
	(事務局)地域公共交通会議のような法定協議会で行くよりも、まずはどうあるべきかをしっかり議論する場を作るべきと考えた。地域への投げかけなど活動していく中で、オブザーバーとして地域の方々にもご参加いただければと考えている。次回そのあたりも含め検討させていただきたいと考えております。
2. 委員会の進め方について	
<b>意見 2</b>	この公共交通活性化委員会と槇島地域の地域生活交通活性化協議会とはどうリンクしているのか。地域が出してきた運行案や実施するアンケートの案を追認するだけの委員会にならないか。
<b>意見 3</b>	地元の説明会で住民の方がどんな反応をされたのか。また説明会の参加者の意見などは、今後どうやって吸い上げられていくのかなど、手法を工夫されないと、委員会は案をただ了解していくだけのものでは、我々委員にとっても不本意なものになってしまうかもしれない。そのあたり、工夫をいただきたい。

(事務局)委員会の場でいただいた意見をもって、再度地域と調整し、運行案を固めていくような作業の流れになると考えている。今後、当委員会運営面で工夫が必要なのかなと感じております。

**意見4** 委員会として、まず課題の抽出から始まるのかなと理解した。今回議論を聞いていて優先的に取り組まなければならないのは、公共交通がなくなって、移動手段がなくなって困っている人達への対応。ただ公共交通として、また商業としてやっていくには、利用者が多くないと採算が合わない。だから利用促進がその中にある、まとめるとそうなると思う。

**意見5** 市がアンケートを取られていて課題を抽出されて、それを解決していく、すぐに解決できるものもあれば、時間のかかるものもある、それを整理してもらって、それぞれどのような役割分担で解決していくかを検討するのが委員会の役割ではないでしょうか。

(事務局)課題の抽出についてはたたき台となるようなものも含めて次回提示させていただきます。

**意見6** バスが無くなって困っている方のため、どうにかしなければならないというのは当然だが、その人達だけのことを考えて、維持だけをしてこれから先細りになってしまう。そういう人達の声に応じながら、他に乘ってくれる人達が呼べるかどうかはこの中で話合っていかなければならないとは考えている。公共交通は維持するだけのものではなくて成長させなければいけない産業という認識で進めたい。

**意見7** バスとかデマンドバスとか出て来て、イメージが固定されるかもしれないが、バスを維持しなければいけない地域ばかりではない。本当に需要がないのであれば、私はタクシーの相乗りなどが最適だと考えますので、もう少し柔軟に意見が出しあえれば良いなと考えています。

**意見 8** 22 K<sup>m</sup>の市街化区域に人口19万人のほとんどが居住し、鉄道駅からの徒歩10分圏内に11万人が住んでいる。残り8万人をどうするか議論を重ねるための会議であると考えておりました。仮にデマンド式バスをやられるならどういったシステムで実施するかも、この委員会で検討していくことになるのかなと考えております。先ほど利用の仕方を検討する必要がある旨おっしゃったので、利用の仕方であれば、我々商工会議所でも考えているところです。

**意見 9** 住民の方からの意向をくみ上げる際のアンケートの作り方自体から非常に大事であります。また住民の方々に施策を提案するような際に委員会の意見を聞いていただく方が良いのではないかという意見も出ております。また、住民の方々の意見を直接聞いて、議論したいとの意見も出ております。一度には無理でもこういった先生方の意見も参考にして、少しずつ地域公共交通会議に近づいていければ良いと考えております。

### 3 . 公共交通の活性化に関して

**意見 10** 交通手段を持たない方々の足を如何に確保維持していくかというところで、今利用されている方を維持していくことだけではなく、バス路線確保していくために今車利用をされている方々が私たちには関係ないという意識を持っておられるのを変えていく必要がある。バスを地域の財産と考えていただく必要がある。

**意見 11** 利用促進のためにはどうしたら良いのかということになるが、まず公共交通を利用されている方の移動の利用回数を増やすのが一点。それからもう一点は、今公共交通を利用されていない方、潜在需要の獲得、この2つかなと考える。

**意見 12** 交通の現状として教育委員会のスクールバスや市福祉部門の福祉バスによって路線バスの需要を奪っていることがある。現状を確認されているのか。市内の事業所が送迎バスを持っておられる場合がある。それらを路線バスに転換していただけるのか、どのようなダイヤなら転換していただけるかの需要を把握できればと考えております。

**【宇治市所管のスクールバス等】**

- ・教育委員会のスクールバス：山間部から木幡中へのスクールバス有。
- ・福祉部門が運行する送迎バス：敬老会, 戦没者追悼式, 障害者スポーツ大会等で運行（市所有バス + 京阪宇治バスへの委託）

**【事業所送迎バスの調査】**

J R 宇治駅：調査日：H25.6.28(金) AM7:00～9:00

事業所送迎バス N = 7 台

事業所の位置：宇治市志津川・白川、宇治田原町

近鉄大久保駅：調査日：H21.5.21(木) AM7:00～9:00

事業所送迎バス N = 13 台

事業所の位置：久御山町・城陽市の国道1号・24号線沿い、宇治田原町

**4 . 代替交通手段の検討について**

**意見 13** 「代替交通手段の検討」のところに「永続的な交通手段の確保のために」との記載がある。これは、市の財政負担なしに収支バランスが合うものを検討されるというようにも読めるがいかがでしょうか。

(事務局) 収支についてここで市としてどうしていくかについての案は持ち合わせておりませんので、今後検討が必要かと考えております。

## 5 . 明星町アンケートの結果の分析に関して

**意見 14** 京都市内への鉄道の利用は京阪とJRの割合が非常に高い。そこで、JR宇治、京阪宇治、三室戸への接続をどうするかがダイヤ上の課題である。

**意見 15** 代替可能、他の移動手段で移動できるかの問いに移動できると答えた人が、他の交通手段に変えないでいただけるよう働きかけることが、公共交通を維持していくことのターゲット。

**意見 16** 将来必要である、知人のため必要だ、社会的基盤であるなどのように地域の人々の意識は高い。社会基盤を整備することに参画できるような誘導をしていけば、もう少し利用は増える可能性あり。

## 6 . 槇島での実証実験に関して

**意見 17** このデマンド式はタクシーに近く、需要を喰い合う懸念があります。そういった意味から、これまでバスに乗っていた方々がデマンド式バスに移行されるのか、タクシーを利用されていた方々がデマンド式を選択されるのか両面が考えられます。そういう意味では構造分析が今後必要になるのではないかと考えます。

**意見 18** こういったデマンド式についてもいくつか類型があって、目的地を特定するか、出発地を特定するかで拾える需要も違ってくるという印象を持っている。そのあたりは、実験等で思考錯誤して確かめるのも重要だが、その前にある程度仮説を練っておくのも重要な作業と考える。

**意見 19** 今回は自宅からどこでもOKにしていたのでかなりばらばら。目的地は駅、公共機関、医療施設、商業施設に限定すると、もう少し違った数字が出ると考える。

**意見 20** 運賃無料で実験したけれども、9割ぐらいが利用されなかった。バスを使うとあなたの生活がこんな風に変わりますよ、と告知できたら利用者が増えたかなと考えている。実際に利用してみて、特にデマンドバスの場合は、もう100円追加で払っても良いという人がかなり増えている。

**意見 21** 実証実験をまた行われるのか。無料で実験をして、有料での運行に切り替えたところ、誰も乗らなくなった事例は多数ある。実証実験の時から料金を取ってその料金が適正かどうかを見極めるような実験をされるべき。

(事務局) 無料で試行実験しても、意味がないのではという認識は地域でもあり、もう一度有料での試行実験を行うべきではという意見や、もう少し長期間での試行実験を行いたいという意見もあった。今後、地元との協議の中でたたき台となるようなものや課題について委員会に提示します。

**意見 22** アンケートでバスを利用した方の目的にその他が多いということは、このその他の理由をもう少し明らかにすると今利用されている方の利用回数をさらに増やす方向に繋がるのではないかと考えました。その他の中で、何か利用されている方の具体的な姿が明らかになっているのであれば、ご回答いただければと思います。

【調査結果】アンケート用紙の「バスを利用した目的」の「その他」の内容を調べた結果、私用(外食、習い事、知人に会う)のためと試行実験中にあった小学校での行事に参加するためというものが多くありました。

## 7. 小倉地域へのアンケート調査について

**意見 23** アンケート調査は具体的に何時なら乗るかのようなもっと細かい、具体性ある内容にするべき。乗らない理由で便数が少ないという意見がよくありますが、同じ人が1日に何往復もするわけではない。その人が必要としている時間を聞くような設定にする必要があると考えます。